

2019 年度平和首長会議 青少年「平和と交流」支援事業

「HIROSHIMA and PEACE」

Marc Grau Moragues (グラノラズ、スペイン)

本報告書では、広島市立大学で開催された夏期コース「HIROSHIMA and PEACE」を受講するために平和首長会議の青少年「平和と交流」支援事業に参加して得られた結論について述べます。まず、平和首長会議の仲間の皆さんとともに過ごした私の経験、そしてそれが広島に対する私自身の視点にもたらした影響について論じます。次に、コースで開催されたさまざまな授業や活動について、また平和の意味を考える際のその影響と合わせて紹介します。最後に、広島発の平和プロジェクトの普及に関する今後の提言とともに結論を考察します。

世界の平和：都市の取組

広島に到着した初日には、世界各地から訪れた仲間と会う機会がありました。具体的にはマンチェスター（イギリス）、ボルゴグラード（ロシア）、テヘラン（イラン）、インパール（インド）、京都（日本）、国立（日本）、そしてサントス（ブラジル）です。なによりまず、各代表がまったく異なる背景をもっていたため、文化と平和に対する視点はたぐいまれな組み合わせとなっていました。こうした多彩さにも関わらず、全員が私の出身都市と同じ広島との絆をもっているものと思っていました。それは一般市民に対する爆撃の体験です。しかし、それぞれが出身都市の歴史を紹介するうちに、都市ごとに広島との関係がまったく異なることに気づきました。例えば、サントスの街は 20 世紀に爆撃を受けたことはありませんが、それでも歴史的な会議や日本の被爆者との会合を推進することで、世界平和の達成に向けて自らの可能性を探求してきました。また、インパールは独立に向けた戦いで日本軍と歴史を共有しました。一方、マンチェスターのような都市は、戦争や市民の苦難の経験を私の出身都市であるグラノラズと共有しています。そのため、1 日目には、平和への取組は過去の苦しみや歴史的な経験からだけでなく、戦争のない世界を達成しようという現代社会の純粋な意志から生まれることに気づきました。

「HIROSHIMA and PEACE」プログラム：視点の共有

平和首長会議の仲間たちに会った後、広島市立大学へ移動して「HIROSHIMA and PEACE」コースを開始しました。初日は幅広い文化的、また叙述的な違いに対処する方法を理解する素晴らしい機会でした。カーソン教授の異文化コミュニケーションに始まり、自分たちの考えを世界に正しく伝えることの難しさを教えていただきました。次に、ハレット教授とジェイコブス教授による世界現代史入門が続きました。さらに重要なのは、アリフ准教授によるセッション「あなたにとって平和の意味とは？」で、平和の概念について話し合ったことで

す。ここでは4人グループになり、個人的な視点から平和について議論し、見解の一致する地点を探りました。

さまざまな講義のなかから、特に取り上げたいのは小倉桂子さんによる印象的で卓越した証言の聴講です。小倉さんはたぐいまれな被爆者であり、戦争体験とその影響について説明してくださいました。私が被爆者に会うのは初めてであり、原爆のもたらしたものと民間人への影響を知るまたとない経験になりました。また松井広島市長に面会し、戦争を経験した数年後に同市が世界的な平和の提唱者になった経緯を知る機会をもてたことは大変興味深いことでした。さらに、松井氏は核兵器との闘いや平和の推進における平和首長会議などの組織の役割を強調されました。

広島で学んだ最も重要なことの一つは、歴史的な出来事や世界の時事問題に対する個人の視点の関連性です。その点に関して、井上教授の講義はメディアが世論に及ぼす影響について教えてくれました。また湯浅教授は、いわゆる公的または政府的な手法への批判的なアプローチに焦点をあて、私たちの情報源を問うことの重要性を強調しました。同じ流れで、松永准教授は、過去の出来事を再検討し、歴史には多くの見方があり、多くの視点から把握されうることが理解する重要性を強調し、そこで、在日韓国人の戦時中の移住体験を議論しました。最後に、永井教授は、広島の平和プロジェクトを批判的な視点から分析し、広島の今日的意義を問いました。

こうした講義の成果は、最終グループプレゼンテーションであらためて、私たちにとっての平和の意味を答える形で結実しました。結論として、私たちは平和には4つの異なる層があり、第一は自分自身の平和、または内なる平和だと述べました。その次に、家族や友人など周囲の人たちを含む社会的な平和を見出すことができます。第三は、文化的または民族的な平和であり、これは属する集団内の平和を意味します。最後に、私たちは世界的な環境における紛争の不在を意味する国際平和を考慮することになるでしょう。

最終的な所感：教訓を超えた経験

全体的に、「HIROSHIMA and PEACE」コースは平和首長会議プログラムと合わせて真に比類のない体験であり、私はさまざまなことを学びました。まず、個人の経歴と視点は、歴史的な出来事への見方や今日的な課題へのアプローチに確実に影響すること。さらに、平和は複雑なものではありますが、地域社会で、また後には国際的な舞台において平和を推進するためには、地方自治体などの小規模な組織の取組がカギを握ること。最後に、戦争の影響とその余波を体験した人たちの証言は、核兵器廃絶の重要性をじかに理解する素晴らしい方法であり、世界平和に向けた取組だということです。

私の今後の計画を共有する前に、私の出身都市と特に平和首長会議事務局に、このようなプログラムを支援し、広島滞在の機会を与えてくださったことを感謝したいと思います。今後

は、より大きな影響をもたらすためにこうした知識の大切さを広めていかなければなりません。そのため、広島での経験やそこで学んだことについて、すでにさまざまなインタビューやメディア報道に参加しています。またマヨラル（グラノラズ）市長や平和プロジェクトチームを中心とした本市職員と面会し、広島で行なった活動を説明する予定です。最後になりますが、私は地元の高校で会合を企画しており、私の経験を将来の世代と共有し、私たちが暮らす世界を変えようという彼らの意志から学びを得るつもりです。

最後に、核兵器廃絶に向けてよりよいアプローチを行うために改善点を検討するのは大切なことです。まず、第一に平和首長会議による加盟拡大の取組は、キャンペーンの届く範囲を拡大するために最も重要です。しかし、より若い世代がキャンペーンに確実に参加するようにソーシャルメディアでの認知度を高め、広げていくべきだと考えます。第二に、日本社会に真の影響力を発揮するためには、中央政府をキャンペーンに参加させることが重要なポイントになると思います。